

○ 本校の概要

- 今年度、開校70周年。児童数339名。11学級。（5月1日現在）
○教育目標「心やさしく じょうぶな子」「進んでやりぬく子」「よく考え工夫する子」
○学校経営の基本方針 「子供たちがわかる楽しさや、まなぶ喜びを感じられる授業をめざし、子供たちに確かな学力の定着を図る。」「体力の向上を図るとともに、基本的生活習慣を身に付け、心身ともに健やかな子供たちの成長を支援する。」「保護者・地域の皆様との連携をより一層深め、信頼される学校をめざす。」
○本校の特色 ・千鳥スタンダードの実践 ・ロング昼休み（月2回）の励行 ・学校支援地域本部（チーム千鳥地域協力隊）の支援を受けた教育活動の充実

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目		目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄									
									評価	人数	コメント							
プラン 1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80％以上が回答した。 2：60％以上が回答した。 1：60％未満であった。	3	「進んで外遊びをしている」と回答した児童の割合	4：A B 評価の割合 90％以上	3	○休み時間に、校庭・体育館・屋上で児童と一緒に教員が遊ぶ「とも遊び」を継続して実施している。児童が積極的に体を動かすことで基礎体力の向上を図るとともに、教員と児童の関りを深めることにつながっている。 ○児童・教員ともにタブレット端末の扱いに慣れ、学習で活用する場面が増えてきた。児童は意欲的に取り組んでいるので、新たな活用法や効果的な取組について、さらに研修を重ねていく。 ○授業の中で、具体物の操作や体験的な活動を行っているが、「おおたのものづくり」との関連付けが十分ではなかった。今後、「おおたの未来づくり」の新設を視野に入れ、関連性を高めていく。 (回答数 327/340)	A	5	・教員の方の努力が見受けられます。また、児童の学力が上がってきていると思います。 ・校長先生はじめ、先生方と一緒に遊んだ経験は、児童の心身の育成にととても意義であると思います。 ・千鳥の子供たちは、よく外で遊んでいると思います。 ・コロナ禍なのでマスクをしないと遊べないので、これからマスクを外せれば、外で遊ぶ子供も増えると思います。							
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4：全教員が行った。 3：80％以上の教員が行った。 2：60％以上の教員が行った。 1：60％未満であった。	2		3：A B 評価の割合 80％以上												
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4：授業において、一人一台タブレット端末を全正規教員が週1回以上活用した。 3：80％以上の正規教員が週1回以上活用した。 2：60％以上の正規教員が週1回以上活用した。 1：60％未満であった。	3		2：A B 評価の割合 70％以上												
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4：対象となる全学級（全教員）で行った。 3：80％以上で行った。 2：60％以上で行った。 1：60％未満であった。	4		1：A B 評価の割合 70％以上												
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4：全教員で行った。 3：80％以上の教員で行った。 2：60％以上の教員で行った。 1：60％未満であった。	4		1：A B 評価の割合 70％以上												
プラン 2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4：対象となる全学級（全教員）で行った。 3：80％以上で行った。 2：60％以上で行った。 1：60％未満であった。	2	「学習したことを理解している」と回答した児童の割合	4：A 評価の割合 40％以上	4	○昨年度より、A評価の割合が高まっている。計画的なぐんぐんタイムの実施、授業改善プランに基づく指導の見直しにより、基礎基本の定着につなげることができた。 ○タブレットドリルやドリルパークといったタブレットを使用した復習は、4児童が意欲的に取り組むことができ、学力の向上に効果的であった。 ○学習カルテを基にした面談や、補習教室については、十分な時間を確保することができなかった。今後、計画的に行えるよう、改善していく。 (回答数 327/340)	A	6	・9割近くの子供たちが学習したことを理解しているのは良いですね。素晴らしいと思います。 ・タブレットドリルは子供たちが大好きなので良いのですが、学力につながっているかは？なところがあり、個人差をなくすには、もう一つ何か必要な気がします。 ・学習したことが理解できない子供が、理解できないところをタブレットで先生に質問できれば、先生も指導しやすくなると思います。							
		算数到達度をステップ学習（電子版）のチェックシートで児童、保護者に知らせる。	4：学期に2～3回知らせた。 3：学期毎に知らせた。 2：年度間に1回は知らせた。 1：お知らせできなかった。	3		3：A B 評価の割合 35％以上												
		学習補助員等による算数の補習を実施する。	4：対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3：80％以上の教員が働きかけた。 2：60％以上の教員が働きかけた。 1：60％以下の教員が働きかけた。	2		2：A B 評価の割合 30％以上												
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80％以上が回答した。 2：60％以上が回答した。 1：60％未満であった。	4		1：A B 評価の割合 30％以上												
		朝のぐんぐんタイム（漢字・計算・読書）を計画的に実施し、基礎的・基本的な学力の定着を図る。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80％以上が回答した。 2：60％以上が回答した。 1：60％未満であった。	4		3：A B 評価の割合 30％以上												
プラン 3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4：全教員が行った。 3：80％以上の教員が行った。 2：60％以上の教員が行った。 1：60％未満であった。	4	「自分にはよいところがある」と回答した児童の割合	4：A B 評価の割合 80％以上	3	○毎朝、登校時に校門で管理職が挨拶をして児童を迎えるとともに、担任・専科教員も授業の開始・終了の際のあいさつ指導を行っている。挨拶の習慣が定着してきており、来校者からも「よく挨拶ができている。」と言葉をいただいている。 ○「いじめは、あってはならないこと。」を学校全体で指導している。いじめの未然防止・早期発見・早期対応のために、児童間の小さな問題も教職員が情報を共有し、組織的に対応している。 ○児童の問題行動や不登校に関し、生活指導夕食やケース会議の場で情報を共有し、対応を行っている。スクールカウンセラーや外部機関とも連携し、専門的な意見も取り入れている。 (回答数 327/340)	A	5	・あいさつができる子がたくさんいますね。私もよくあいさつをされます。素晴らしいと思います。 ・挨拶がきちんとできるようになってきているという、それだけでも自信をもたせていいのではなかろうか。 ・「自分にはよいところがある」という質問に「あてはまらない」という回答が多かった。必ず良い所があるはずなので、先生方で見つけてあげてください。 ・「自分にはよいところがある」について、約21％の子が「そうではない」ということについては、もっと少なくなると良いですね。ポジティブな思考は本当に大事だと思うので、気になりました。							
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4：学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3：学期に1回（年間3回）以上行った。 2：年度間に1回以上行った。 1：実施しなかった。	2		3：A B 評価の割合 55％以上												
		学校生活調査（メンタルヘルスチェック）の結果よりストレス症状のみられる児童に対して組織的に対応する。	4：「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3：80％以上の教員が回答した。 2：60％以上の教員が回答した。 1：60％未満であった。	3		2：A B 評価の割合 55％以上												
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4：「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3：80％以上の教員が回答した。 2：60％以上の教員が回答した。 1：60％未満であった。	4		1：A B 評価の割合 70％以上												
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童に関するケース会議等を実施する。	4：必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3：必要な事案に対しておおた会議を実施した。 2：必要な事案に対してあまり意識を実施しなかった。 1：必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	4		1：A B 評価の割合 70％以上												
プラン 4 増進 体力の向上と健康の	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4：全教員で行った。 3：80％以上の教員で行った。 2：60％以上の教員で行った。 1：60％未満であった。	4	「子供たちは学校のきまりを守って楽しく生活している」と回答した保護者の割合	4：A B 評価の割合 85％以上	4	○長なわ週間やランランタイム（持久走）を設定し、全校で取り組むことで、運動に親しむ習慣や体力の向上につながる意識付けを行うことができた。 ○「早寝・早起き・朝ごはん・あいさつ・宿題できたかな」月間の取組を行い、生活習慣や礼儀作法、コミュニケーションについて児童・保護者への啓発を行ってきた。取組後も、継続して行いたいという意見が多く、意識向上につなげることができた。 ○感染症対策を継続して行うことで、こうねでの感染を防ぐことができ、児童が安全に学習できる環境を整えることができた。	A	9	・とても良いと思います。決まりを守って楽しく生活している子が、ほぼ全員ですね。 ・学校に行くのが楽しくなれば、一番良いことだと思います。 ・長なわ、ランランタイムなど、とても工夫が見えます。よく身体を動かしていると思います。							
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらった「食育」を推進する。	4：全教員で行った。 3：80％以上の教員で行った。 2：60％以上の教員で行った。 1：60％未満であった。	3		2：A B 評価の割合 70％以上												
		体育的行事、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4：全教員で行った。 3：80％以上の教員で行った。 2：60％以上の教員で行った。 1：60％未満であった。	4		1：A B 評価の割合 70％以上												
		新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「新しい生活様式」を意識した行動を推進する。	4：全教員で行った。 3：80％以上の教員で行った。 2：60％以上の教員で行った。 1：60％未満であった。	4		1：A B 評価の割合 70％以上												
プラン 5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりまします。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80％以上の教員が回答した。 2：60％以上の教員が回答した。 1：60％未満であった。	4	「わかりやすい授業」「活動の充実」と回答した保護者の割合	4：A B 評価の割合 80％以上	4	○感染症対策を行いながら、年間3回の学校公開や、運動発表会、学習発表会等の行事を実施することができた。児童の学習・発表の場を保護者に見ていただけたことで、学習面・生活面についての理解を深めることができた。 ○校内研究と合わせて、若手教員の育成を目的にOJTの一環として「わかば研」を継続して行っている。若手教員の授業力向上につなげるとともに、講師となる主任教諭等の意識の向上につながったので、今後も有効な手段として実施していく。 ○個別の支援が必要な児童に対して、校内委員会等の場で情報共有を行い、組織的に対応してきた。個々の特性に応じたさらなる支援ができるよう、巡回指導教員やカウンセラー等との連携を密に行っていく。 (回答数 154/274)	A	8	・とても良いと思います。							
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4：学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3：学期に1回（年間3回）以上行った。 2：年度間に1回以上行った。 1：実施しなかった。	4		3：A B 評価の割合 70％以上												
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80％以上の教員が回答した。 2：60％以上の教員が回答した。 1：60％未満であった。	4		2：A B 評価の割合 60％以上												
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4：月1回以上行った。 3：学期に2～3回行った。 2：学期1回以上行った。 1：実施しなかった。	3		1：A B 評価の割合 60％以上												
プラン 6 なりて学校ともに家庭・地域教育が一体と	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4：月1回以上更新した。 3：学期に2～3回更新した。 2：学期1回以上更新した。 1：更新しなかった。	4	「PTA活動や学校支援地域本部（チーム千鳥地域協力隊）との連携は充実している」と回答した保護者の割合	4：A B 評価の割合 80％以上	4	○学校支援地域本部（チーム千鳥協力隊）の支援を受け、地域の人材を活用しながら学習補助や安全管理、施設維持を進めることができた。特に、登下校時の見守りや校外学習の引率等、協力を得られたことで、児童が安全に活動することができた。 ○開校70周年の記念式典や関連した取り組みに対し、PTA、チーム千鳥協力隊の支援を受けられたことで、滞りなく実施することができた。 ○本校の教育活動を公開するにあたり、学校だよりやホームページで情報を発信している。ホームページをさらに活用し、学校生活や行事の様子を伝えていきたい。 (回答数 154/274)	A	8	・「チーム千鳥協力隊」などの活動が評価されて、地域とのつながりが密になっているということは望ましい姿と考えられる。 ・アンケートほぼ100％ですね。他校にはない「チーム千鳥」というボランティア組織があるのは素晴らしいと思います。 ・PTAとしても、引き続き子供たちのために、支援協力をしていきたいと思っています。 ・町会から新たに見守り隊に1名お手伝い致しますので、よろしくお願致します。							
		地域教育連絡協議会において、児童の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4：毎回情報を提供した。 3：おおむね情報を提供した。 2：あまり情報を提供しなかった。 1：情報を提供しなかった。	3		3：A B 評価の割合 80％以上												
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	4：学期に2～3回行った。 3：学期1回以上行った。 2：年1回以上行った。 1：実施しなかった。	4		2：A B 評価の割合 70％以上												
		保護者・地域と連携して「早寝・早起き・朝ごはん・あいさつ・宿題できたかな」運動を推進する。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80％以上の教員が回答した。 2：60％以上の教員が回答した。 1：60％未満であった。	4		1：A B 評価の割合 70％以上												
学校独自	学校図書館の整備や司書教諭の配置などの読書活動の向上を図ります。	児童にとって魅力的な学校図書館になるように整備を行い、授業や休み時間の活用を推進する。	4：「週に1回以上活用した」と全教員が回答した。 3：80％以上の教員が回答した。 2：60％以上の教員が回答した。 1：60％未満であった。	4	週に1回以上、学校や地域の図書館を利用した児童の割合	4：90％以上 3：80％以上 2：60％以上 1：60％未満	4	○図書部図書と協力し、各学年の読書活動に力を入れてきた。図書委員会の「読書の木」の取組や、図書ボランティアによる読み聞かせを通して、読書への興味を高めることができた。 (回答数 327/340)	A B C D	9	・図書館が活用されているというのは、児童の成長につながると思われる。 ・読書への興味を高める取り組み、素晴らしいと思います。							

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である B：自己評価はおおむね適切である C：自己評価は適切ではない D：評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載